

# 2022年7月号

## FP 武蔵野グループ

### 生き方が多様化する時代こそ、自分のライフプランを考えよう

伊達 寿和 (CFP®認定者)

ライフプランは人生設計とも言われるように、今後の人生をどのように生きるかを考える一つの道具です。日々の仕事や生活に追われて、これからの人生について考えることなんてしたことがなかった人にとっても、これからの時代は必要なものとなるでしょう。

日本が昭和の高度成長期だった時代、多くの人の生き方はいくつかのモデルに当てはまる状況でした。一つの例としては、男性は就職して、結婚し、仕事に邁進しつつ、住宅を購入し、60歳になったら退職を迎えて余生を過ごす。女性は就職して、結婚を機に退職し、家事や子育てに専念するといった、いわゆる会社員・専業主婦モデルです。

当時、多くの会社員は終身雇用制度や定期的な給料アップ、手厚い福利厚生を受けることができました。家庭の収入は定期的に増えるため、無理な使い方をしなければ、住宅の頭金を準備して、住宅ローンの返済をしながら、子どもの教育費も負担することができました。また、老後は退職金と手厚い年金で生活に必要な資金を準備できました。

ライフプランは基本的に同じようなパターンになり、将来の生き方を模索する人はそれほど多くなかったと思われま

一方、平成、令和の時代になり、働き方が多様になると同時に、人生100年時代と言われるように老後の生き方も多様になってきました。

終身雇用制度が少なくなり、正社員、非正規社員、フリーランスといったさまざまな働き方が現れ、転職や独立でのキャリアアップを目指すケースも増えています。また20代、30代といった若い世代では、2、3年ごとに会社を変わる欧米型の働き方をする人も増えています。

その他、結婚せずに独身を選ぶ人、住宅は購入せず賃貸を選ぶ人、子どもは持たず夫婦二人生活を選ぶ家庭など、生き方においても人それぞれの状況となっています。働き方や生き方が多様化するにつれて、お決まりのパターンがなくなっているのが現在の状況です。

今は「自分が」今後の人生をどのように生きるかを考えることが大事になります。

長い人生を生きるにはお金も必要です。終身雇用や定期的な給料アップは見込めないことが多いので、自分で目指す収入水準を決めて仕事を探す必要があります（そのための教育を受ける必要があるかもしれません）。老後の年金も十分とは言えない状況になっており、老後の生活に余裕を持たせたいと思えば、少しでも多くの老後資金を準備する必要があります。

ライフプランを考えることは「自分の」生き方を考えること、そのためのお金についても考えるきっかけになります。

ライフプランを考える年齢に制限はありません。20歳には20歳からのライフプランが、40歳には40歳からのライフプランが、60歳には60歳からのライフプランが、80歳には80歳からのライフプランがあります。

家族、働き方、住まい、子どもの教育、趣味や娯楽など、今後の生き方について考えてみましょう。ライフプランを作ることそのものは難しくありませんが、これまで考えたことがない人には、想像を膨らませるトレーニングになるのではないのでしょうか。

少しでも明るい将来イメージを持って、自分のライフプランを考えていただければ幸いです。

以上